

Principal Correspondence

リリーはプレップ・スクール？



英国でパブリック・スクールと言えば

王室，貴族，富裕層のための全寮制の私立中・高等学校を言います。代表的な学校はロンドン郊外ウインザー市のイートン校です。

シルクハットと燕尾服の制服で，世界中から留学生を受け入れています。卒業生はオックスフォードか，ケンブリッジ大学（俗称，オックスブリッジといいます）または士官学校などに入学します。

最近「ハリー・ポッター」の映画でその雰囲気の一部が垣間見られますが，戦前は女子の入学はできませんでした。ところで米国では「パブリック（公共）・スクール」は文字通り公立学校を指すのに，英国ではなぜ私立でありながら，パブリック・スクールというのでしょうか？ それは昔，学校は僧侶や王侯貴族の子弟のみのものであったのですが，富裕な平民の勃興とともにその子弟も入学できるようになったことからきていると言われます。つまりパブリックに開かれたわけです。米国ではこの様な学校はボーディング・スクール（Boarding School）と呼ばれます。

このパブリック・スクールに入るのに特別なプレップ・スクールという小学校があります（通学制ですがパブリック・スクールに大変近い雰囲気と教育内容をもっています）。

私は30年以上，毎年多くのプレップ・スクールを訪れましたが，

リリーベール小学校を創るときに考えたのは日本のどこにも無い「教育」「雰囲気」のプレップ・スクールでした。

パブリック・スクールは大体（誘惑の多い街の環境から隔離された）山の中や田舎にあり，自然の中で寮（ハウスと言います）ごとに先輩後輩が寝起きを共にして，規律正しい生活を送ります。リーダーの条件である「公正であること＝フェアプレイ」を小さい頃から叩き込まれます。共通している精神は「ノブレス・オブリージ（社会のリーダーたる者の果たすべき義務）」を教えるということです。

すなわち単なる名門意識や，私利私欲の学閥意識とは異なり，義務と使命を持つということです。一旦，事あって戦争にでもなると貴族の子弟やオックスブリッジの学生は真っ先に最前線に立ち，第1次大戦では，オックスブリッジの一代が丸ごと亡くなってしまったといわれるほどです。この人々にはいまだに国難や社会の問題の最前線に立つという意識が色濃く残っています。それが国民にも広く浸透し，尊敬もされ，英国の民度を高めているように思います。



当校の「自立」「創造」「リーダーシップ」という校訓は，将来子どもたちがそれぞれの分野で先端に立って活躍してもらえることを願って掲げられています。

Principal Correspondence

ゆっくり順番を踏んで育てましょう

人間の脳は500万年前とほとんど同じといわれています。

狩や採取生活をしていた時代に最適化された脳を使って、現代人はアスファルトジャングルを生きているので（遺伝子は500万年位ではそう大きく変わらない）、色々ひずみができるのです。

もし、500万年前にあなたが生きていたなら、社会のリーダーは狩が上手で体力と運動神経（身体的知能）があり、山に入っても迷わない（空間的知能）人だったでしょう。



農業が始まり、穀物の管理をするような仕事から、産業革命を経て、現代では知的労働が高収入をもたらす事で（医者や弁護士や経営者などに代表される）論理数学的知能や、言語的知能（つまりIQ）だけがもてはやされる（親は子どもたちを塾や教室に通わせ、学習に熱を入れる）ようになりました。

もちろん従来の身体的知能はアスリートとして、絵画的知能や音楽的知能はアーティストとして職業が存在しますが、それで食べていける人はごくわずかなので、どうしてもIQ系の発達を望むことになります。現代ではこれも一理ある現象です。

しかし順番を間違っではいけません。

第一に、人間の脳は体を司る脳幹などの芯の部分がまず発達します。

第二に、徐々に5歳位から10歳頃までの幼少期（いわゆる臨界期まで）に実体験的な経験活動をすることによって、脳の器が発達します。

第三に、ほぼ10歳頃から少年期の終わり頃までは、人間の一番人間らしい前頭葉が発達します。



先んずれば人を制すとばかり、脳幹がしっかり育っていないうちに心身（五感）を伸ばさずに、乳児期から勉強を始めたり、英語のテープを一日中間かせたりして知識を詰め込んでも、脳は偏るばかりです。

5～10歳（臨界期）までは様々な体験活動を通して知恵を身につけ、人間関係を身につける時ですが、この時に座学ばかりだったり、逆にのびのびと自由に、とって放任したりすると、その後の脳の発達に支障をきたします。

10歳ぐらいから伸びるのは、それまでの脳の器を基礎にして発展させる、「創造性、やりぬく力、規範意識（正悪の判断）、挫折にめげない力、思いやりや共感性、リーダーシップ」などの高度な能力です。このような人間力ともいえる知能を使って、それからは高度な知識や、トレーニングを積み重ね高い能力を育てていきます。

それぞれの時期に一番適した教育をする事が、バランスの取れた脳を創り、立派な人を育てるのです。

